

令和元年度事業報告

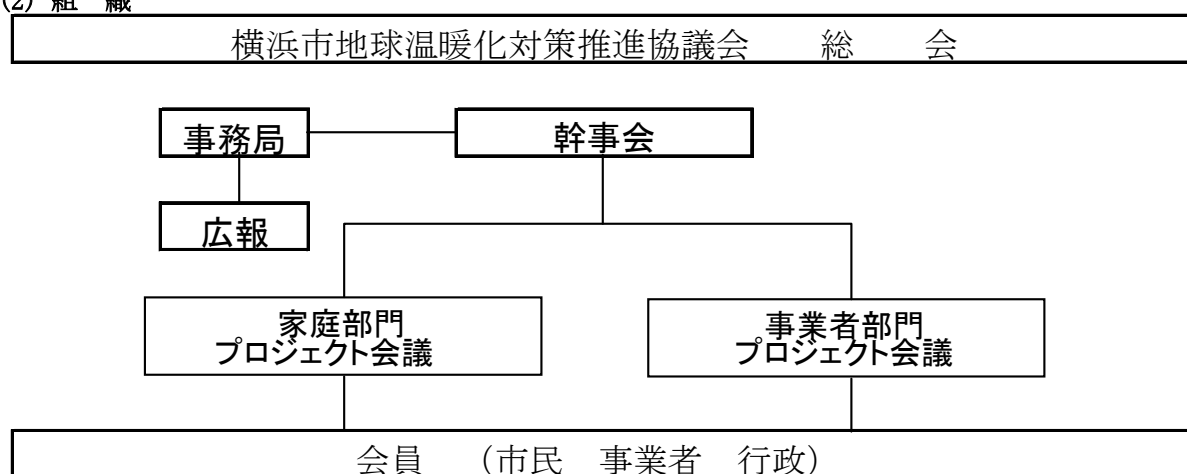
横浜市地球温暖化対策推進協議会は、「横浜市地球温暖化対策実行計画」に掲げた横浜市の温室効果ガス削減目標の達成等に向け、市民、事業者、行政が協働して地球温暖化対策の実践行動を促進し、地球温暖化防止に寄与することを目的とし、令和元年度は次の構成のもとに各種事業を実施しました。

1 構 成

(1) 会員数 111（令和2年3月31日現在） （平成31年3月末：115）

内 訳 個人会員：27 学生会員：0 事業者会員：67 団体会員：17

(2) 組 織



総会	本協議会の最高決定機関であり、予算・決算・事業計画などの重要項目を審議する。
幹事会	総会での議決事項等の実施に関することなどを審議する。
プロジェクト会議	会員に呼びかけて、プロジェクトを立ち上げ各事業を実施する。

2 会議開催状況

(1) 総 会

開催日	場 所	概 要
令和元年 5月24日（金） 13時30分～ 16時45分	情報文化センター6階ホール	第一部総会 第一号議案 30 年度事業報告 第二号議案 30 年度収支決算報告並びに監査報告 第三号議案 令和元年度事業計画（案） 第四号議案 令和元年度収支予算（案） 第五号議案 役員改選（案） 第二部 情報提供・ 特別講演 RE100 宣言と SDGs の取組、大学・企業課題解決マッチング 会の実践に向けた取組、廃食油等の取組、横浜市温暖化対 策統括本部令和元年度事業概要の説明、Zero Carbon Yokohama 太陽光発電普及キャンペーン 2020 報告 第三部 地球温暖化防止活動環境大臣賞表彰 横浜環境活動大賞 受 賞お祝いの会

(2) 幹事会

回	開催日	場 所	概 要
1	令和元年 5月9日	松村別館 503	
2	令和元年 10 月 11 日		1・挨拶 横浜市地球温暖化対策推進協議会会長 松本真哉 横浜市地球温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 宮島弘樹 2・幹事自己紹介・新幹事挨拶 横浜市からの情報提供 (15分) 3 活動報告と今後について 区民まつり一覧表 風力発電見学会報告書 道志村 チラシ 太陽光発電 進捗状況一覧 学習会 マッチング会 廃食油の活用 その他 4・次回 幹事会開催
3	令和元年 12 月 23 日		1 挨拶 横浜市地球温暖化対策推進協議会会長 松本真哉 横浜市温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 宮島弘樹 2 横浜市からの情報提供 3 活動報告と今後について 区民まつり，風力発電見学会，道志村 太陽光発電 進捗状況一覧 マッチング会

		その他 4・次回 幹事会開催
--	--	-------------------

3 広報活動

これまでのホームページを活用しながら、リニューアルし、市民に当協議会の活動、イベントの案内等情報提供を実施した。タイムリーに告知するためにフェイスブックを開設した。ホームページ以外では、メール等で横浜市の情報等をお知らせした。

4 市との協定事業

(1) 区民まつり等のイベントでの令和元年度重点テーマの普及

1) 事業期間 令和元年7月27日～令和2年1月18日

開催日・時間	場□□所	イベント名	参加者 (人)	内□□□容	カーボンオフ セット回収枚数
令和元年 7月27日(土) 7月28日(日)	蒔田公園	南区民まつり	200	ブース出展、LED、太陽光発電普及、 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	51
令和元年 9月29日(日)	都筑区役所	都筑区環境アドベン チャー	170	太陽光発電、省エネ住宅、LED、 廃食油回収、カーボンオフセットアンケート(都筑区に協力)	270
令和元年 10月13(日) ※中止	反町公園	神奈川区民まつり		ブース出展、LED、太陽光発電普及、省エ ネ住宅、カーボンオフセットアンケート	
令和元年 10月13日(日) ※中止	日本大通り等	中区民祭り「ハローよ こはま		ブース出展、LED、太陽光発電普及、 アンケート	

令和元年 10月19日(土)	海の公園	金沢まつり	250	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	83
令和元年 10月19日(土)	入船公園	鶴見区	300	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	100
令和元年 10月20日(日)	旭区役所第一駐車場	旭ふれあい区民まつり	230	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	142
令和元年 10月20日(日)	旧上瀬谷通信施設の はらっぱ	瀬谷フェスティバル	700	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	154
令和元年 11月2日(土)	港南ふれあい公園	こうなん子どもゆめ ワールド	800	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	408
令和元年 11月2日(土)	本郷中学校 校庭及び体育館	栄区民まつり	400	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	0
令和元年 11月3日(日) □□	青葉区役所 第1、第2駐車場と区 役所1階区民ホール	青葉区民まつり	300	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	153
令和元年 11月3日(日・祝)	センター北会場	都筑区民まつり	750	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	270
令和元年 11月3日(日・祝)	和泉遊水池3池□	泉区民ふれあいまつり ～子どもたちの未来 を創る“いず魅力”	600	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	0
令和元年 11月3日(日・祝)	戸部公園	西区民まつり「くらしの広場」	350	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	101
令和元年 11月23日(土)	戸塚区総合庁舎3階	とつかエコフェスタ	200	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	0
令和元年 11月20日(水)	港南台ダイエー前	港南のみんなで「エコ活」	100	ブース出展、LED、太陽光発電普及 省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート	0
令和元年 1月18日(土)	吉田中学校	豊かな体験を通じた 学びフォーラム	120	ブース出展、LED、キャンドル 省エネ住宅、太陽光発電普及	

2) 成果

延べ16日、5470人のブース来場者にLED、太陽光発電普及、省エネ住宅、カーボンオフセットアンケート等を実施。
カーボンオフセットアンケートは 1732 名から回収できた。

区民まつりは地域の方が多数来場し、市民の方に働きかけるにはとても良い場所であり、ここで多数の市民の方に働きかける事ができたのは、市民の方の行動意識の増成に大きな効果を及ぼした。

3) 写真



(2) 風力発電とエネルギー関連施設等の見学会開催

1) 事業期間 令和2年1月29日

日時	場所	参加者 (人)	内容	カーボンオフ セット 回収枚数
令和2年 1月29日 (木)	ハマウイング、キリン ビールシースルーパ ネル見学会	44人	風力発電所「ハマウイング」と水素貯 蔵施設、 キリンビール横浜工場のシースルー パネルの見学	28

2) 成果

二酸化炭素を出さない風力発電の電気で、水を分解して水素を創る仕組みを学ぶ事が出来て、脱酸素未来のエネルギーへの理解が深まった。

また、キリンビール横浜工場のシースルーパネルの見学を実施した。

バスの中で温暖化講座を実施した。カーボンオフセットアンケートは28人から回収できた。

3) 写真



(3) 道志村「横浜市民の水源地間伐体験・水源地散策」※台風の影響により中止

1) 事業計画 令和元年10月11日

日時	場所	参加予定者 (人)	内容
令和元年 10月11日 (日)	道志村(山梨県南都 留郡)	40	水道局との調整, 水道局道志村事務所等との調整 による 横浜市民の水源地・道志村の源流の森見学コース 確認・間伐体験・水源地見学・学習会の開催、間 伐材集積の木の駅見学等準備実施。 ☆上記実施予定であったが、台風15号で道志村 ががけ崩れ等の被害が大きく、さらに台風19号直 撃も予想されており、準備は全て終了したが横浜 市とも相談して安全を期して中止とした。

2) 成果-結果台風の影響により中止

- ・水道局との連携が取れて、現地事務所の所長・職員の皆様の案内で水道の歴史を学ぶ計画であった。
- ・例年間伐体験よりも散策体験希望が多いが、今年度は間伐体験を選ぶ参加者が多く、横浜の水源地の保全に関心を持つ参加者が増加の傾向であった。

・水道局の方たちの実験により、森林がある事により、水が浄化されて流れてくるのがわかる、緑のダムの果たす役割を参加者に知らせる事を計画。

☆しかし、上記実施予定であったが、台風15号で道志村が崖崩れ等の被害が大きく、さらに台風19号直撃も予想されており、準備は全て終了していたが、横浜市とも相談して参加者の安全を考慮して直前に中止とした、地球温暖化による異常気象災害を実感する結果となった。

(4) 横浜発！太陽光発電普及キャンペーン2020

1) 事業期間

令和元年年6月25日～令和2年1月31日

2) 事業内容-

「横浜発！太陽光発電キャンペーン2020」の実施にあたり、以下のメニューを参加事業者との連携により、広報の実施や実現にむけて関係者と調整。

- ・自家消費型初期投資ゼロ円太陽光発電設置事業（事業者・自治会館等）
- ・環境省補助金「地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立分散型エネルギー設備等導入推進事業」を活用した設置

事業

- ・自家消費型個人住宅太陽光発電・蓄電池設置事業（個人住宅）

3) 参加事業者 ：日天株式会社

株式会社ロフトシステムズ

株式会社スカイテック

株式会社太陽住建

株式会社横浜環境デザイン

ハンファQセルズジャパン株式会社

株式会社エクソル

TEPCOホームテック株式会社

NECキャピタルソリューション株式会社

みんな電力株式会社

4) 協 力 ：横浜信用金庫

5) パンフレットの印刷 不足分はコピーにて対応

- ・作成部数 2000部

- ・配布先

各事業者、高齢者福祉施設施設長会議

イベント・学習会・各区民祭りにて配布(足りない分はコピーにて印刷)

6) 成果

- ・大川印刷㈱は太陽光発電の設置後完成式を実施。

さらにみんな電力からの太陽光発電電気の購入により、自然エネルギー100%アクションに登録。

- ・健康福祉局の紹介で社会福祉施設等施設長会議等で設置呼びかけ

また、環境省の「地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立

分散型エネルギー設備等導入推進事業」の補助金に申請

しかし、風水害・がけ崩れ等のハザードマップに該当して、

申請取り下げとなる状況も発生した。

○設置件数

	事業者・自治会館・施設等			個人住宅	設置施設名
	設置・稼働		相談・調整		
	初期投資ゼロ	その他			
平成29年度	0	2	－	26	
平成30年度	0	0	0	0	
令和元年度 (1月末現在)	1	3	32	30	・ 大川印刷株式会社 ・ 特別養護老人ホーム和みの里 ・ 横浜学園 ・ 社会福祉法人敬愛会
計	1	5	32	56	



(5) 大学・企業等の課題解決マッチング会

1) 事業期間 和元年6月25日～令和2年1月31日

2) 事業内容

開催日時：令和元年12月15日（日）

開催場所：横浜国立大学

開催内容：企業等の環境課題に学生が解決策を提案

- ・5つの企業等が抱える環境課題に、市内5大学12の学生チーム46人が解決策を提案した。
- ・希望が丘高校から4チーム16名が参加した。

	企業名	環境課題	解決策提案校
1	イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北	より多くの方々に、日々の暮らし、そして人生の中で、より持続可能な、人にも地球にもポジティブな選択肢を選んでいただくための提案 SDGs:目標 3, 11, 12, 13	神奈川大学, 東京都市大学 東洋英和女学院大学 フェリス女学院大学
2	岩手県一戸町	再生可能エネルギー社会の維持における森林保全についての提案（税制を除いて）SDGs7, 11, 15	横浜国立大学
3	関内まちづくり振興会	『セントラル関内のまちづくりを考える際の「エコタウン化」のアイデアや視点の提案(ビジョンづくりへの若者の提案)』 SDGs 目標7	横浜国立大学
4	みんな電力株式会社	横浜市において、再エネ由来の電気をご家庭で使う人を増やすための施策を、価格ではないユニークな方法で実施することはできないか？SNS や、学校行事を使うなど、実現可能性以上に、若者の斬新で面白いアイデアを出していただきたい。SDGs 目標7	横浜国立大学
5	横浜市	「Zero Carbon Yokohama に向けた、ムーブメント作り」	神奈川大学, 東京都市大学 フェリス女学院大学 横浜国立大学

3) ・審査項目

①実現可能性（企業）（大学生・大学）

②将来性

③影響力・波及効果等

④アイデア・独創性

4) ・審査員 松本 真哉（横浜国立大学教授・横浜市温暖化対策推進協議会長）

薬師寺 えり子（横浜市温暖化対策統括本部長）

春名 義弘 （神奈川新聞社）

5) ・表彰

実現可能性、独創性、CO₂削減効果などを総合的に評価し、実現可能賞、ゼロ・カーボン実践賞の表彰、参加賞が決定。希望が丘高校生チームにも参加賞が授与された。

順位	表 彰 名	受 賞 校	提案企業名
1	実現可能賞	東京都市大学	イケア・ジャパン(株) IKEA 港
2	ゼロ・カーボン実践賞	東洋英和女学院大学	イケア・ジャパン(株) IKEA 港

6) 成果

参加は、5大学、12チーム、企業等5つであった。更に希望が高校4チームから提案があり、それぞれ素晴らしい提案が出された。神奈川新聞、タウンニュースにも取り上げられた。

学生たちは、課題への提案に向けて自分たちの選んだ企業等を事前に訪問し、更に企業等に提案内容を事前に送付して意見をもらう等のやり取りが見られ、課題に対する相互理解を得ながらの提案となった。

マッチング会で提案された内容を今年度いくつ実現に持っていけるのか、協議会としては、担当の先生、課題提案企業と調整を行い、それをもとに、学生たちと相談しながら、主催した協議会としてマッチング会がやりっぱなしにならないように実現を目指したい。

終了後の交流会には、企業・行政・学生が多数参加し意見交換を実施しその場で次の打ち合わせの約束が出来たチームもあった。

7) 写真





(6) Zero Carbon Yokohama、SDGsの実践に向けた授業・学習会の開催・講師派遣

1) 事業期間:

令和元年6月25日～令和2年1月31日

2) 内容:

行政・企業・市民団体等の講師を派遣して講義を実施する事により、最近の新しい社会の動向や実践を学び実践能力を育む力を構築する事を目的とした。

①希望が丘高校

開催日	開催時間	□□□□テーマ・講師名			所□□□□属
		太陽光発電	省エネルギー	廃食油	
8月27日(火)	9時45分～10時35分	〃	〃	朝比奈 巖	信愛エナジー合同会社社長
8月27日(火)	14時10分～15時	佐藤 一子	〃	〃	横浜市地球温暖化対策推進協議会事務局長 (特非)ソフトエネルギープロジェクト理事長
8月28日(水)	14時10分～15時	〃	奥野 修平	〃	横浜市温暖化対策統括本部副本部長
8月30日(金)	9時45分～10時35分	大川 哲郎	〃	〃	㈱大川印刷代表取締役社長
	13時15分～14時05分	〃	戸川 孝則	〃	横浜市資源リサイクル事業協同組合 企画室室長
9月2日(月)	11月40分～12時30分	〃	高嶋 威男	〃	川上地域エコ活動委員会事務局長
9月5日(金)	9時45分～10時35分	〃	〃	古川 務	東京都市大学准教授
〃	11時40分～12時30分	〃	〃	藤田 誠治 佐藤 一子	港南区芹が谷連合自治会会長 横浜市地球温暖化対策推進協議会事務局長
〃	13時15分～14時05分	宮島 弘樹	〃	〃	横浜市温暖化対策統括本部調整課担当課長

②神奈川大学

開催日	場所	テーマ	対象人数	内容
令和元年 6月25日～	神奈川大学	市民社会論	39人	01.ガイダンス 松本安生 02.ゼロカーボン社会とは 古川都市大学准教授 03.行政の視点での ZCY(1)～SDGs 未来都市横浜 04.行政の視点での ZCY(2)～Zero Carbon Yokohama 05.行政の視点での ZCY(3)～3C ☆03,04,05 横浜市温暖化対策統括本部 06.事業者の視点での ZCY(1)～太陽光発電 ソーラーフロンティ株式会社 07.事業者の視点での ZCY(2)～バイオマス

				政・企業・市民協働の視点で ZCY (1) 再エネ」 7/8 企業・市民団体 様「企業・市民の視点での ZCY (2) 省エネ等」川上地区連合自治会 地域エコ活動推進委員会 7/15 企業・市民団体 「企業・市民の視点での ZCY (3) リサイクル等」資源れサイクル協同組合 7/22 松本真哉、氏川恵次 「グループワーク」 7/26 松本真哉、氏川恵次 「グループワーク課題発表 or 提出
--	--	--	--	--

④保土ヶ谷区

開催日	場所	テーマ	対象人数	内容
7 月	保土ヶ谷区区民会議環境部会にて	Zero carbon yokohama について、 廃食油回収の意義について	20 人	地球温暖化による異常気象等の今後の状況 家庭で出来る省エネ。廃食油の活用 奥野副本部長 横浜市地球温暖化対策推進協議会

⑤関内まちづくり振興会

開催日	場所	テーマ	対象人数	内容
9 月 24 日	関内まちづくり振興会 泰正ポーチ	Zero carbon Yokohama の取組	21 人	地球温暖化による異常気象等の今後の状況 太陽光発電普及キャンペーン 地球温暖化の現状とその対策 佐藤一子 地球温暖化対策維新協議会

⑥大豆戸打ち水大作戦

開催日	場所	テーマ	対象人数	内容
9 月 15 日	大豆戸打ち水大作戦 大豆戸自治会館	Zero carbon yokohama について	36 人	家庭で出来る省エネ 横浜発！太陽光普及キャンペーン 202 佐藤一子 地球温暖化対策維新協議会

3) 成果

- ・ 希望が丘高校，神奈川大学，横浜国立大学での授業の実施はこれからの担い手である学生たちに最新情報を伝える等とても有意義である。
- ・ 自治会・町内会での学習会の開催は地域住民へと広がり非常に効果的である。

4) 写真



(7) ウェブサイトでの告知・PR

1) 事業期間

令和元年6月25日～令和2年1月31日

2) 告知・PR回数

80 回 (face book含む)

〈発信内容〉

風力発電見学会告知・募集, 報告

道志村間伐・散策体験募集と中止

大学・企業等課題解決マッチング会告知, 報告

太陽光発電普及啓発キャンペーン告知, 報告

横浜市地球温暖化対策推進協議会の取組

横浜市の取組

日本・世界の現状・取組等

3) その他

「横浜発！ 太陽光発電普及キャンペーン2020」のページをリニューアル

(8) 未利用な都市型バイオマス「未利用油脂」を活用した地産地消型発電事業

1) 事業の目的

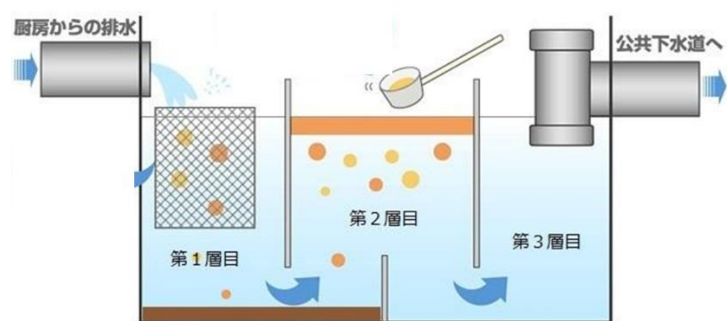
” Zero Carbon Yokohama ” の実現に向け、今回は飲食店等で廃棄される排水油脂の「エネルギー活用」、「回収による下水道への油分流出抑制」、「二酸化炭素排出削減効果」に関する有効性を検討するため、会員企業と連携し、市内において試行調査及び事業の PR を実施する。

①実施概要

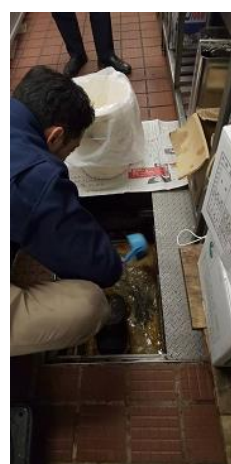
内 容	(1) 排水油脂の回収実証 中華街など、数店舗にてグリストラップ (GT) の浮上油脂を回収する ①内容：排水油脂回収量の把握、GT 管理状況の把握、排水油脂品質の確認 ②方法：作業員が店舗に訪問し手作業にて回収 ③時間：回収時間帯は 14:00～17:00 間とする ④実施予定：2 月中に 2 回 注意：回収訪問時に、排水油脂の品質を確認し、資源化可能と判断した排水油脂のみを資源サンプルとして回収する。 (2) 資源サンプルの燃料化テスト及び燃料分析 (3) 現在産業廃棄物として業者依頼している下水に流す前の廃食油の有価買取可能性 再生燃料のエネルギー利用の可能性と経済性を検証する ①内容：燃料製造歩留まり、燃料品質、燃料用途 ②方法： i) 燃料化テストの実施 ii) 燃料分析 (着火性・成分等) iii) 燃料分析結果に基づく再生燃料用途の検討 ③対象：2 検体 (4) 事業の PR 上記の (2) で燃料化した燃料で発電したエネルギーを協議会が連携するイベント等で活用するなど、事業の PR を行う (5) 報告書の作成 上記 (1) (2) (3) (4) を踏まえ、二酸化炭素排出削減効果も含めた報告書を作成する ①内容： i) 1 店舗が貢献可能な二酸化炭素排出削減量の試算 (排水油脂回収量×燃料製造歩留り×燃料用途) ii) 「店舗当り削減量×店舗数」から横浜市での削減可能性を試算 iii) エネルギーとして有効利用するための課題の整理
場 所	横浜市内各所
対 象	市内飲食店等
期 間	令和 2 年 2 月～令和 2 年 3 月
協力団体等	会員企業：株式会社ディービーエム 飲食店、区役所 役割分担 協議会：関係機関との調整、飲食店への協力依頼 事業者：回収実務、燃料化テスト&燃料分析、事業の PR、報告書作成

(1) 排水油脂の回収実証

図：グリストラップの一般的な構造（GTを横から見た図）



廣東飯店 1回目:3/5 (10L) 2回目:3/19 (2L)



江戸清横浜工場 1回目:3/5 (30L)



(2) 資源サンプルの燃料化テスト及び燃料分析



燃料分析結果、及び軽油・灯油・重油との比較

	サンプル A (中華街)	サンプル B (KFC)	1 号軽油 JIS 規格	1 号灯油 JIS 規格	A 重油 JIS 規格
引火点 (°C)	220	270	50 以上	40 以上	60 以上
硫黄分 (ppm)	33	15	10 以下	80 以下	500 以下
窒素分* (ppm)	100 以下	100 以下	(50~600)	—	—
発熱量** (MJ/L)	33.7	32.9	38.2	36.7	39.1
セタン価 (指数)	56.8	51.6	50 以上	—	—

中華街の排水油脂から精製した燃料サンプルの評価

- ・ ラードが中心でセタン価も軽油より高いことから、ディーゼル発電機で活用可能な燃料と評価できる。また窒素分、硫黄分とも軽油、灯油、重油と比較しても低く、排気ガスがキレイなボイラー燃料としても評価できる。

回収実証事業のまとめ

- ・ 新型コロナの影響により、当初予定していた規模での回収実証、及び事業の PR などは実施できなかったが、燃料化テスト&燃料分析など一定の成果は得られた。
- ・ 中華街で排水油脂を、今後とも事業として回収するためには、グリストラップの簡易清掃と排水油脂の回収作業費が 1 回あたり 2,500 円程度と経済的であること&昼間で 1 日 20 店舗以上の回収協力が必要である。今後は、このコストでどれだけの店舗が協力頂けるのか、昼間に安全かつ効率的な回収が可能であるのか、の検証が必要。
- ・ また排水油脂回収には、TVK レストラン、勝烈庵、関内まちづくり振興会の中の中華料理店等など、中華街以外の店舗も興味を示している。中華街だけでなく、中区全体に広げた場合に、どれだけの店舗集積効果があれば回収コストを 2,500 円程度に抑えることができるのかについても、検討する必要がある。
- ・ バイオマス燃料は重油、灯油と比較して窒素分、硫黄分は少なく、大気汚染の原因となる成分が少ないことから、CO2 削減効果だけでなく、大気汚染防止にも貢献する燃料であることが示された。
- ・ バイオマス燃料を発電利用するよりも、重油代替利用の方が、燃料あたり 30%近く CO2 削減効果大きい。今後は、燃料価格も高騰すると考えられることから、重油や灯油を代替する形で横浜市内で活用する事業についても検証を行い、発電利用と合わせて、燃料利用方法についての最適化についても検討する必要がある。

(9) 地球温暖化対策の全市的な連鎖づくりに向けた関係者の連携を育むプラットフォーム構築事業

1). 事業の目的

横浜市が推進する、2050 年までの脱炭素化、「Zero Carbon Yokohama」の実現、COOL CHOICE YOKOHAMA の推進に向けて、温暖化対策の取組を進める各団体間の情報共有、意見交換のため、Facebook「チーム・ゼロ」を立ち上げる。この取組では、既に取り組んでいる横浜市、企業、団体間、大学・自治会等の情報を見える化し、横のつながりを強化するプラットフォームを立ち上げる。

①事業内容

目 的	Face book Zero carbon yokohama チーム・ゼロ プラットフォーム 対話と連携の場の開設と運営
内 容	1 Facebook グループ「チーム・ゼロ」プラットフォームの開設 1) 開設日時 令和2年2月1日 2) 投稿はグループに参加したメンバーとし、メンバーの参加、退会の承認は協議会が責任をもって行う。 3) 閲覧は公開とする。 4) 運用ポリシーは別紙案のとおりとする。 2 更新と運営 1) 情報発信頻度 1日3回(月曜日から金曜日) 1か月60回(5日×4週) 2) 情報発信の内容 ①協議会の取組 ②Facebook アカウントを所有していないメンバーの取組 (協議会による代理投稿) ③地球温暖化・気候変動・zero carbon の取組等に関する世界・日本・神奈川・横浜の情報(協議会による情報収集と発信) ④横浜市の情報の入手とアップ 3) 運営 ①メンバーの参加承認、退会手続き ②運用ポリシーに基づく投稿管理 3 メンバーの拡大 令和元年度末で100団体の参加を目標とする。 想定するメンバーは以下のとおり。 1) 協議会会員の団体・企業・大学・ゼミ (35) 2) 横浜市が連携している各組織 (39) YES 登録団体(15)・事業者協議会(5)・ヨコハマ SDGs デザインセンター(5)・スマートゾーンアライアンス YSBC(5) 北岩手循環共生圏(9) 3) 核となるメンバー (10) 各区の団体・企業・自治会等 ・港北・青葉区・緑区・都筑区・鶴見区・中区・南区・戸塚区・保土ヶ谷区・栄区・港南区・旭区の市民団体・自治会等 県推進員団体・関内まちづくり振興会・パタゴニア・ヨコハマコミュニティデザインラボ 4) 協議会、及び核となる団体からの参加呼びかけによるメンバー (10)
場 所	主にインターネット
対 象	横浜市内、及び関連地域の自治体・企業・学校等・自治会・団体等
期 間	令和2年2月～令和2年3月 60回程度
予 算	1,340千円(横浜市800千円 協議会540千円)
協力団体等	

2) . 実施・検証結果

①プラットフォームの企画・立ち上げ

各団体間の情報共有、意見交換の場として Facebook を立ち上げるためには、どのような形態が良いのかについて、協定事業者である横浜市と意見交換を行いながら検討した。

様々な形態を検討した結果、誰もが投稿できる仕組みが良いが、自由に投稿できる仕組みにすると、ゼロカーボンや温暖化対策とは関係の無い投稿もあり得る事が想定されたため、活用する機能はページ機能とし、投稿は、個人ではなく、ページ管理者として権限が付与されたメンバー等とした。また、メンバーの参加・退会の承認は協議会が責任をもって行う事とした。閲覧は、公開として誰が見れる事とした。

ページの運用ポリシーは横浜市が運用している各種 Facebook アカウントの運用ポリシーを参考にしつつ、参加がしやすいポリシーとした。

チーム・ゼロは2月27日から開始した。ページの表紙は、市から提供を受けた写真を活用し、下記のとおりとした。



②プラットフォームでの情報発信

情報発信は、2月27日から3月20日で、計22日間実施された。

情報発信の内容としては、広い意味での地球温暖化・気候変動・zero carbon の取組等に関する世界・日本・神奈川・横浜の情報（協議会による情報収集と協議会の取組）、横浜市の情報の発信、アカウントを持っていない団体等の代理投稿とした。

発信の頻度は、登録者及び管理者からの投稿を1日5回とし、合計で116回であった。

投稿に対する「いいね」の数は1日30～50件以上あり、多い日には100件近い「いいね」があった。なお、横浜市の環境保護団体の中では、最高の5の評価を得ている。

また、ページへの「いいね」の数は174であった。

③プラットフォームの管理・運用

登録希望団体・企業等への招待・承認については、1人1人に、招待を送付、承認を得ることにより登録団体を拡大した。また、これまでポリシー違反の投稿は無く、当初の心配は今の所杞憂に終わっている。

ただし、ページ機能の特性上、投稿者名全てチーム・ゼロの名前表示になり、投稿者が本文に自身の名前を入力す

る必要がある。

このため、投稿者のプロフィールや所属団体がわからない、悪意のあるメンバーが他者を語って事実と異なる投稿することができる等、ページの運営に支障をきたす可能性もあるため、他の機能を活用した方法について、早急に検討し、改善していく必要があると考えている。

④関係者の調整・拡大

登録を希望する団体、個人の中には、Facebook での登録・投稿方法等を知らない方も多く、団体・企業等に Facebook への投稿促進を頻繁に実施した。

横浜市と連携している各組織等との連携は、今後の投稿の見直し等も含め、来年度の実施となった最終的な登録者数は 66 であった。

自分のアカウントでの Facebook への投稿は慣れていても、他のアカウントでの投稿はしたことがない方が非常に多い事が分かった。

また、大きな企業、及び大学等の場合、組織として投稿するには組織の承認も必要である事もわかった。

3) まとめ

短期間で 60 を超える登録者が参加してくれたことは一定の成果である。

また地域に核となるメンバーとして、港北区、中区、南区、戸塚区、保土ヶ谷区、港南区の市民団体・企業・自治会、及び神奈川県温暖化対策推進員横浜地区組織、関内まちづくり振興会、横浜コミュニティデザインラボ等の組織にも登録いただき、連携を深めることができた。

◆来年度へ向けての課題・提案

(1) 課題

- ① 登録団体が目標の 100 団体に達しなかった。
- ② 自分のアカウントでの投稿以外、実施したことが無い方がほとんどであった。
- ③ ページ機能を活用したプラットフォームとしたが、Facebook の仕組みが変わり(その前は個別のアカウントで投稿できた)、投稿者のアカウントではなく全てチームゼロでの投稿になってしまう事が課題である。2020 年度はグループ機能の活用など、自分のアカウントで投稿できる仕組みを至急検討したい。

(2) 提案

- ① 更なる登録団体の拡大
- ② チーム・ゼロ登録団体の自己紹介等を映像で紹介する。
- ④ チーム間のネットワークの調整